

福岡市埋蔵文化財調査報告書第616集

## 橋本一丁田遺跡・女原遺跡

橋本一丁田遺跡群第3次調査

女原遺跡群第5次調査

1999

福岡市教育委員会

福岡市埋蔵文化財調査報告書第616集

HASHIMOTO ICHOU DA  
橋本一丁田遺跡・女原遺跡 MYOUBARU

橋本一丁田遺跡群第3次調査

女原遺跡群第5次調査



橋本一丁田遺跡群第3次(HIT-3)9733  
女原遺跡群第5次(MBR-5)0746

1999

福岡市教育委員会

## 序

福岡市では北方に広がる玄海灘の海を介し、彼地との人、物、文化の交流が先史時代より絶え間無く続けられてきました。この地の利を生かした人々の歴史を物語る多くの遺構・遺物は地中に残され、発掘調査が進むなか明らかにされてきています。その中には大陸の先進技術、文化を示す貴重なものも多く、学術研究上、特に注目されているところです。

今回の調査では我国に伝わった水田技術の初期形態の一部を明らかにするとともに、4世紀代の古墳時代の集落が発見されました。

本書はこうした調査成果を収めたもので、やむなく多様な開発によって消滅する埋蔵文化財について実施した記録保存の一つです。研究資料とともに埋蔵文化財に対するご理解と活用への一助となれば幸いです。

最後に調査に際し御協力いただいた関係者各位の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成11年3月31日

福岡市教育委員会

教育長 町田 英俊

## 例　　言

- 本書は平成9年度に福岡市教育委員会が実施した橋本一丁田遺跡群(第3次)と女原遺跡群(5次)の調査報告書である。
- 調査と本文執筆は荒牧が行い、遺物や実測図の整理は嵐川伊津子、安川三千代、黨早苗、淨書は井上加代子が補助した。
- 本書掲載の実測図、写真、遺物等、調査で得られた資料類は福岡市埋蔵文化財センターで収蔵・保管され、公開、活用されていく予定である。

## 凡　　例

- 本書掲載の遺構図の方位は橋本一丁田遺跡は公共座標によるが、女原遺跡は磁北で真北より $6^{\circ}40'$ 西偏する。
- 挿図、写真番号および遺物実測図の番号は各遺跡で通した。

調　查　名	橋本一丁田遺跡群第3次	開発面積	1990m <sup>2</sup>
遺　跡　略　号	HIT-3	調査面積	833m <sup>2</sup>
調　査　番　号	9733	調査期間	970807～971004
調査地番籍	西区拾六丁町1丁目25-3外		

調　査　名	女原遺跡群第5次	開発面積	3878m <sup>2</sup>
遺　跡　略　号	MBR-5	調査面積	282m <sup>2</sup>
調　査　番　号	9746	調査期間	971007～971027
調査地番籍	西区女原279番外		

## 目 次

### 橋本一丁田遺跡群第3次

#### (本文)

##### Iはじめに

1調査に至る経過	1
2調査の範囲と方法	1
3調査の概要	1
4調査体制	1

##### II位置と環境

1立地	1
2歴史的環境	1
3既往の橋本一丁田遺跡調査	2

##### III調査の記録

1基本層序	5
2弥生時代の遺構 (SD10)	9
3古墳時代の遺構 (SC12、SK41、SD14、SD01)	10
4中世の遺構 (SE11、SB46)	14
5その他の遺構	19

##### (写真)

写真1 調査区北東壁 土層断面 (南から)	4
写真2 調査区北東部 旧河川検出状況 (南東から)	4
写真3 トレチC—C' 土層断面 (北から)	7
写真4 調査区全景 (南から)	8
写真5 SD10近景 (北東から)	8
写真6 SD10上層断面 (北から)	9
写真7 SD10出土遺物	9
写真8 SC12光掘状況 (南から)	10
写真9 SK041完掘状況	11
写真10 SK041出土遺物	11
写真11 SD014完掘状況 (北東から)	12
写真12 SD014出土遺物	13
写真13 SD01遺物出土状況	14
写真14 SD01出土遺物	14
写真15 SE11検出状況	16
写真16 SE11下底杭列検出状況	16
写真17 SE11和鏡出土状況	16
写真18 SE11出土和鏡	17
写真19 SE11出土和鏡 (拡大)	17

写真20 SE11出土剣物容器	17
写真21 SD16、SB45完掘状況 (南東から)	20
写真22 SX43完掘状況 (西から)	20
(図)	
図1 調査位置と地質	3
図2 旧地形図	3
図3 調査区北東壁、トレチ土層断面図 (1/60)	6
図4 橋本一丁田遺跡群第3次調査 遺構全体図 (1/200)	7
図5 SD10土層断面図 (1/40)	9
図6 SD10出土遺物実測図 (1/3)	9
図7 SC12実測図 (1/40)	10
図8 SC12出土遺物実測図 (1/3)	11
図9 SK041実測図 (1/40)	11
図10 SK041出土遺物実測図 (1/3)	11
図11 SD14実測図 (1/60)	12
図12 SD14出土遺物実測図 (1/3)	13
図13 SD01遺物出土図 (1/20)	14
図14 SD01出土遺物実測図 (1/3)	15
図15 SE11実測図 (1/40)	16
図16 SE11出土遺物実測図 (1/3)	17

図17 SE11下底出土遺物実測図 (1/3) .....	18	図20 溝、柱穴、包含層出土遺物実測図 (1/3) .....	19
図18 SB46実測図 (1/80) .....	18	図21 第2次、第3次遺構配置図 .....	21
図19 溝断面図 (1/40) .....	19	図22 方形区画溝 (1/200) .....	22

## 女原遺跡群第5次

### 本文

#### Iはじめに

1 調査に至る経過 .....	23
2 調査体制 .....	23

#### II位置と環境

地形 .....	23
周辺の遺跡と既往調査 .....	23

#### III調査の記録

1 調査の概要 .....	26
2 上層 .....	27
3 遺構 (SD01、SX02、SX15、SX06) .....	28

#### (写真)

写真1 調査区南側全景 (北西から) .....	25
写真2 調査区北側全景 (北から) .....	25
写真3 調査区南側土層断面 (北から) .....	27
写真4 SD02完掘状況 (南西から) .....	28
写真5 SD01上層断面 (東から) .....	29
写真6 SX15完掘状況 (南から) .....	29
写真7 SX06出土遺物 .....	30
写真8 SD01出土遺物 .....	30

#### (図)

図1 女原遺跡群第5次 調査地点と周辺遺跡分布図 (1/8000) .....	24
図2 女原遺跡群第5次 調査区 (1/1000) .....	24
図3 女原遺跡群第5次 遺構全体図 (1/200) .....	26
図4 調査区土層断面図 (1/125) .....	27
図5 SD01土層断面図 (1/60) .....	29
図6 女原遺跡群第5次調査出土遺物 (1/3) .....	30

## I はじめに

### 1 調査に至る経緯

1996年（平成8年）8月1日に柴田清孝氏より店舗宅地開発の用途目的で埋蔵文化財発掘調査願いが提出された。これを受けて埋蔵文化財課では試掘調査を同年8月13日を行い、弥生時代～古墳時代の遺構を検出した。以後、発掘調査に向けてコーナーガスティック株式会社と協議を重ね、翌年（平成9年）の8月7日より調査を開始した。

### 2 調査の範囲と方法

今回の調査地点は橋本一丁目遺跡群に含まれ、近接した位置で2回の調査が行われている。この成果として周辺一帯、旧河川の流路が通り、夜臼、板付式期の水利施設が検出されるとともに、上層の検出面より古墳時代（布留式併行期）や中世の遺構が確認された。

本調査地点においても複数の遺構検出面が予想されるが、開発の掘削深度が浅い事由により、北半の駐車場部分は調査対象から除外するとともに、調査を実施した南北（面積833m<sup>2</sup>）においても表土直下の現況G Lから-3、40cmの遺構検出面での発掘調査のみを行い、掘削が深いガスタンクの範囲に限り下層まで掘り下げ、旧河川を確認した。

### 3 調査の概要

上記のとおり、本調査では上面のみの遺構確認を行い、調査区の南西部において、布留式期の集落を検出した。この時期の主な遺構は集落を限るように走行する溝（SD01）、方形区画溝（SD14）、堅穴住居（SC012）1棟、壇を埋置した土塙（SK041）が上げられる。特に、方形区画溝についてはその構造と性格が留意される。中世では掘立柱建物跡が1棟、井戸（SE11）が1基検出され、桶の井筒から和鏡が出土した。

既往の調査成果から注目される弥生時代の水田施設遺構は水路と考えられる溝1条（SD10）に留まるが、埋土から数点の突帯文土器片が出土した。

### 4 調査体制

調査は以下の組織体制で臨んだ。

（調査主体）福岡市教育委員会（調査総括）埋蔵文化財課長 荒巻輝勝 第一係長 二宮忠司  
（事前審査）主任文化財主任 松村道博 係員 池田祐司（庶務）河野淳美（調査担当）荒牧宏行

## II 位置と環境

### 1 立地

福岡市の西部に形成された早良平野の中央部に位置する。早良平野は丘陵によって、東の福岡平野、西側の今宿、糸島平野と分けられ、中央部を貫流する室見川によって主に形成された扇状地からなる。しかし、海岸部では砂丘とその南側に形成された後背湿地の三角洲が広がる。

橋本一丁目遺跡はこの扇端近くに位置し、室見川の支流である名柄川の旧河川が北西方向へ流下している。また、西側の丘陵部からは北東方向へ派生するように低位段丘面や沖積微高地が広がるものと思われる。この事は今回の調査においても旧河川の検出と南西部の微高地に立地した布留期の集落によって確認された。

### 2 歴史的環境

橋本一丁目遺跡で検出された弥生時代初頭と古墳時代前期の遺跡について以下、若干ふれてみる。早良平野では突帯文期からの遺跡が17箇所程知られるようになったが、その広がりは下流域の後背湿

地部分を除き、奥まった内陸の沖積地まで分布する。集落としては中位段丘面に環濠を築いた有田遺跡があげられる。水田面が検出されたものは拾六町平田遺跡があるが、中期では内陸部の岩本遺跡で検出されている。概して、湿润な早良平野では水路の施設や木器が良好な状態で出土し、今後期待される。

弥生終末から古墳前期にかけての集落として野方遺跡が拠点的位置を占めているが、西側丘陵裾部の羽根戸遺跡や古武板盛遺跡にも該期の集落が広がる様相を呈している。また、同じく西側の十郎川流域の沖積地では、湯納遺跡、牟多田遺跡で水利施設が検出されている。

### 3 既往の橋本一丁目遺跡調査

#### 橋本一丁目遺跡第1次調査<sup>(5)</sup>

第3次調査（今回）地点の北側に位置し、2700m<sup>2</sup>の範囲に及ぶ。遺構は層位を異にして弥生時代と古墳時代のものが検出されている。弥生時代のものは突帯文期に属するものであろう。（矢板列が検出されたSD25は後期後半とされているが、突帯文系の出土が多い。）また、旧河川SD00は最終埋没時期が弥生後期末～古墳前期初頭と思われる。

#### 橋本一丁目遺跡第2次調査<sup>(6)</sup>

第1次、第3次（今回）の東側を南北に貫通する道路建設に伴う調査である。幅45m延長240mの調査区が設定され、部分的であるが第1～5面の検出面が確認されている。第1面の水田耕作土下からは中、近世の土壤、溝が検出された。第2面は布留期の溝、土壤、第3面は弥生前期の可能性があり、イネのプラントオパールや稲株状の痕跡が検出された。しかし、水田施設の確認には至っていない。第4面では突帯文期、板付式期の旧河川2条とともに矢板、杭列等が検出され木器の出土をみた。なお、西側の流路（SD010）は第1次調査のSD00や第3次調査（今回）の旧河川と関連している可能性がある。第5面は縄文晩期の遺物を含む包含層である。

- (1)【拾六町平田遺跡】 福岡市埋蔵文化財報告書第305集 1992  
【拾六町平田遺跡2】 福岡市埋蔵文化財報告書第349集 1993
- (2)【岩本遺跡】 福岡市埋蔵文化財報告書第342集 1993
- (3)【湯納遺跡】 福岡市埋蔵文化財報告書第225集 1990  
『今宿バイパス関係埋蔵文化財報告書第1集』福岡県文化財報告書第4集 1976
- (4)【牟多田遺跡】 福岡市埋蔵文化財報告書第27集 1974
- (5)【橋本一丁目遺跡】 福岡市埋蔵文化財報告書第220集 1990
- (6)【福岡外環状道路関係埋蔵文化財報告5】福岡市埋蔵文化財報告書第582集 1998



図1 調査位置と地質 下山正一・磯 望「拾六町平田遺跡周辺の地質と地形」[拾六町平田遺跡2]に加筆



1. 拾六町ツイジ遺跡
2. 清納遺跡
3. 拾六町平田遺跡
4. 石丸古川遺跡
5. 橋本一丁田遺跡(3次)
6. 早多田遺跡
7. 藤崎遺跡
8. 有田遺跡
9. 有田七田前遺跡
10. 原遺跡
11. 兼(綿町)遺跡
12. 次郎丸遺跡
13. 野芳遺跡
14. 田村遺跡
15. 四箇遺跡
16. 重留遺跡
17. 東入部遺跡

図2 旧地形図



写真1 調査区北東壁 土層断面（南から）



写真2 調査区北東部 田河川検出状況（南東から）

### III 調査の記録

#### 1 基本層序

先述のとおり、調査は北側の駐車場部分を省く南半部に限られ、その範囲内においても工事掘削の深さが浅いという事由により、調査区の大半は現況G.L.より約40cm掘り下げた検出面での調査にとどまった。唯一、北東部のガスタンク埋設部分のみ、工事掘削が深いため、この範囲の77m<sup>2</sup>について現況G.L.より2.4m下げた標高3.7mまで掘り下げ、土層の確認と遺構の検出に努めた。ここで見られた主な層序は以下の通りである。

第1層 客土

第2層 耕作土

第3層 黒褐色粘質土（包含層）

流路の埋没最上層で、レンズ状の堆積がみられる。

第4層 明褐色シルト

褐鉄の斑文が多い。厚いが均質で分層が困難

第5層 黒灰粘土

淡青灰シルト～細砂が薄く互層入り、大きな起伏のうねりが見られる。流木を含む。

第6層 灰白～青灰砂

所見

1 北東部の北壁面中央が最深部となるレンズ状の堆積がみられる。（図3）この流路は平面的には第5層と第6層の層界である南東から北西へ走行するラインによって流下していく方向が判る。同様の方向へ走行する層界は今回の調査で遺構検出面とした第4層上部でも見られ、埋没する最終段階まで、この方向に流路ないし谷筋が通っていたものと考えられる。この事は調査区南西部にSD01に囲まれる様に布留期の集落が広がることから、おそらく南西部に微高地が形成され、北東にむけて下降していた地形が推察される。

2 調査の最終段階で数箇所に試掘トレンチをいれ深堀を試みた。試掘トレンチB-B'は西側への砂層の落ち込みが見られ、広範な河川域の中で小規模な流路が筋を変えながら埋没していったものと推察される。この旧河川域は図示できなかったが、調査区の西際で灰白色粘土が岸壁になる落ち込みが見られた。東側の第2次調査では検出された古墳時代SD071の下部に規模の大きい縄文晩期の可能性がある流路SD001が検出されている。

3 旧河川は第3層に含まれる土器片から布留期までには埋没したものと考えられる。これは第1次調査のSD00の埋没時期と合致するものである。拾六町平山遺跡の調査での旧河川の埋没時期は弥生後期までにもとめられ、上記と近い時期が考えられ古環境を推察する上で示唆的である。

4 試掘トレンチC-C'では検出面下に上下層と明らかに異なる硬質の暗褐色土5層が堆積し、耕土の可能性があったが、耕土と認定する他の証跡は認められなかった。しかし、周辺の調査成果や本調査で検出された水路から板付式期の水田が存在した事は確実である。

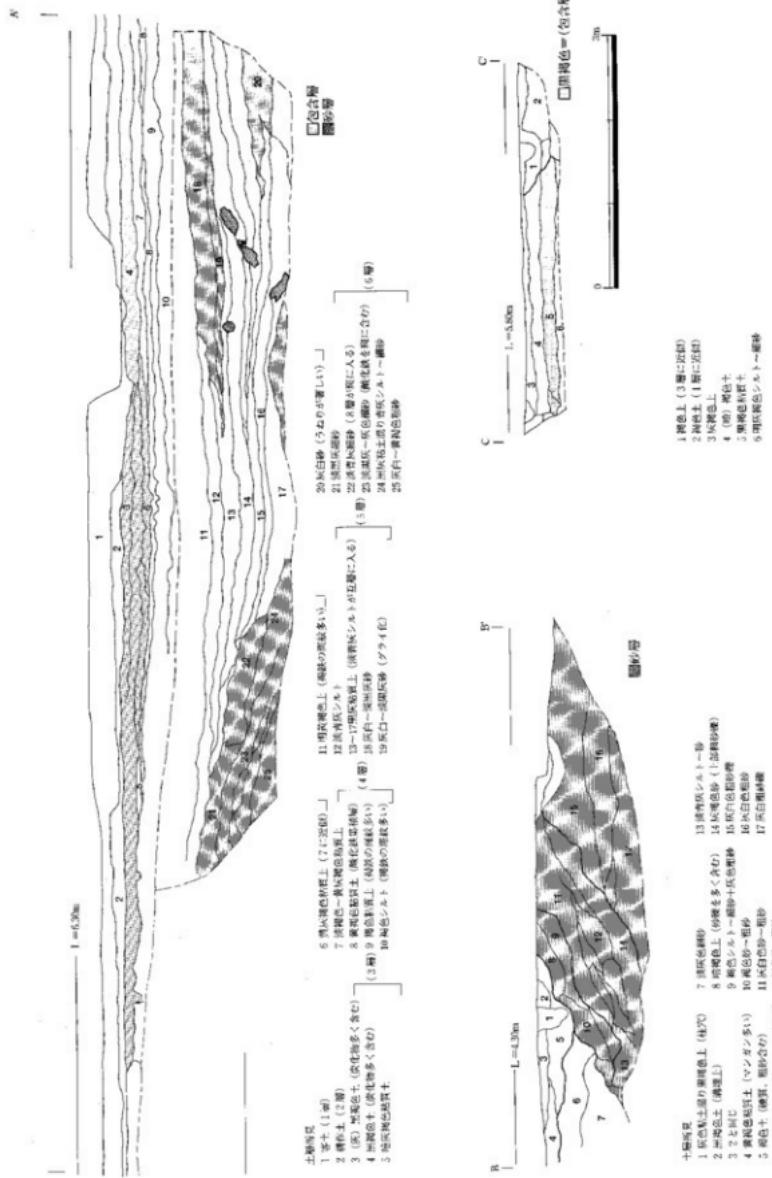


図3 調査区北東壁、トレンチ土層断面図 (1/60)

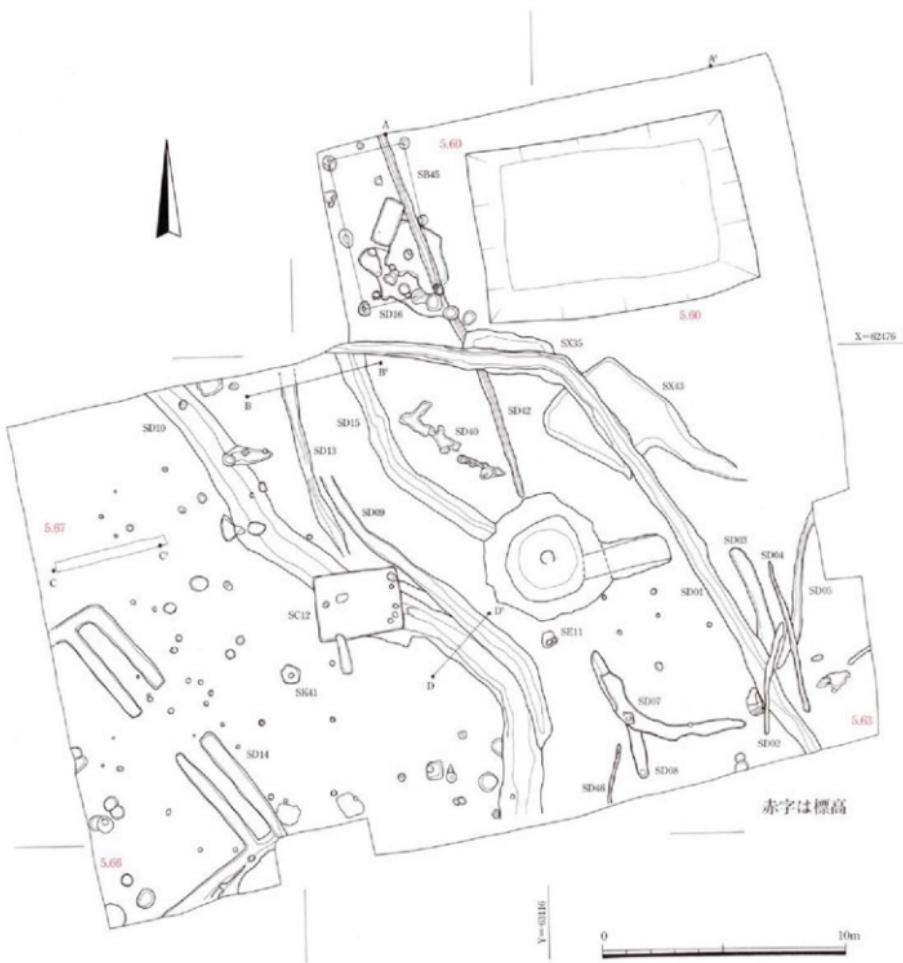


図4 橋本一丁目遺跡群第3次調査 遺構全体図 (1/200)



写真3 トレンチC-C' 土層断面 (北から)



写真4 調査区全景（南から）



写真5 SD10近景（北東から）

## 2 弥生時代の遺構

### S D10

上端幅180cm、下底幅70~100cm、深さ60~90cmの規模で台形状の断面形をなす。調査区南側で大きく西側にふれ北西方向へ蛇行しながら走行する。基底のレベルは調査区南側で標高5.0m、北側で4.7mを測り、約23mの延長で30cmの比高差となっている。埋土に砂層の間層が多くみられ、強い水流が推測される。

### 出土遺物

総数にして20点程の粗製の条痕土器や壺体部少片のみ出土した。1は口縁端部に比較的大きめの突帯を貼り付け、棒状工具により太めの刻みが施されている。外面は貝殻条痕がみられるが内面には細い刷痕のみ残る。2は端部から下がった位置に突帯を貼り付けヘラ状工具により横方向へ刻みを入れる。外面は不明瞭であるが、内面には条痕がみられる。3は端部近くに小さい突帯を貼り付け、均等に細かい刻みを施す。外面には条痕がみられるが、内面は摩耗して不明瞭であるが条痕はみられない。

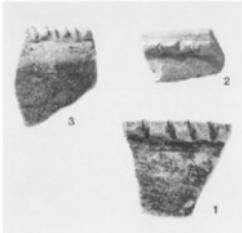


写真7 SD10出土遺物

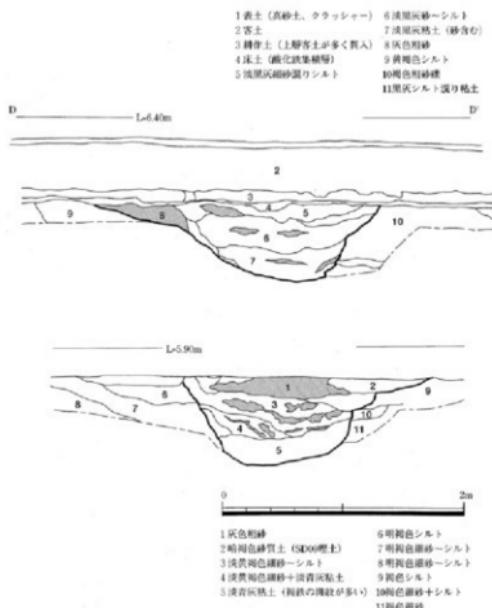


図5 SD10土層断面図 (1/40)



写真6 SD10土層断面 (北から)



図6 SD10出土遺物実測図 (1/3)

### 3 古墳時代の遺構

SC012

調査区のほぼ中央で検出された。短辺は東側で260cm、西側はやや短く240cmを測る。長軸長は355cmの方形プランを呈す。壁高は10cm程しか遺存していない。柱穴は北東隅に深さ18cmの明確なものが1個検出され、他に、隅角を中心精査したが主柱穴は見られなかった。竪穴の範囲が狭いので周囲にベッド状の施設が付けられていた可能性もある。焼跡が西寄りの中央で検出された。長軸長55cm、短軸長40cmの歪な梢円形の掘り込みに焼土と炭混じりのシルトが埋まる。掘り込みの深さは10cm程で、焼土の範囲も径15cmの狭い範囲に収まる。

#### 出土遺物

4は西壁際から出土した。口縁部は横方向のナデ、外面体部は指頭痕が目立つ手捏土器である。

5の口縁部はわずかに内湾し、端部は水平な平坦面を為す。遺存する全体にヨコナデの調整を施し、体部内面のヘラ削りはみられない。6の球形に近い甕体部は最大径部近くに細かい摩耗したヨコハケ、その上下にタテハケが施されている。

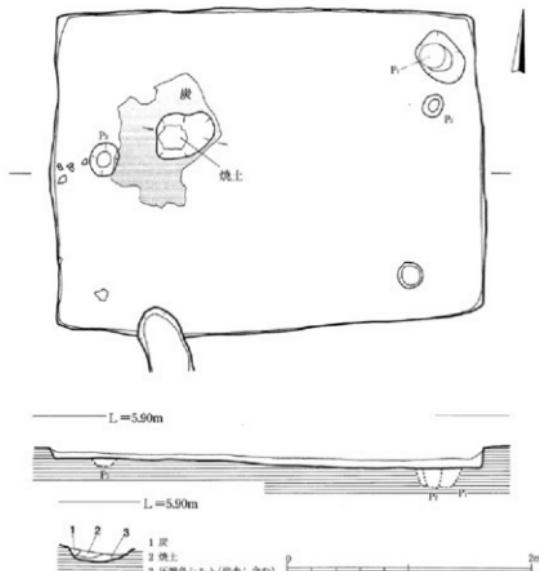


図7 SC12実測図 (1/40)



写真8 SC12実測図 (南から)

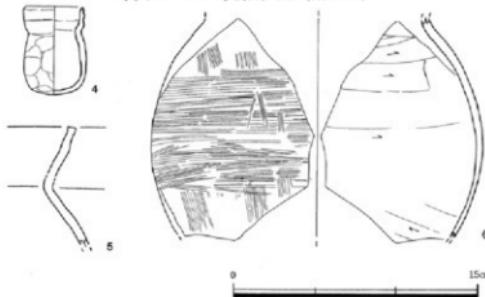


図8 SC12出土遺物実測図 (1/3)



写真9 SK041完掘状況

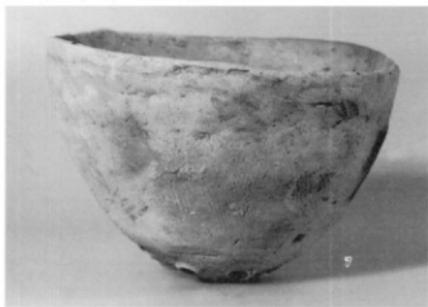


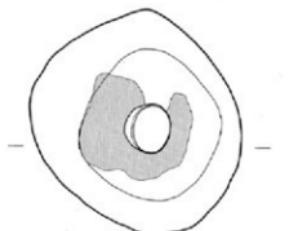
写真10 SK041出土遺物

S K 041

調査区の南寄りの中央部で検出された。上面を小柱穴が切る。長軸長90cm、短軸長80cmの隅丸方形に近いプランを呈し、深さは40cmを測る。土層はレンズ状の堆積がみられるが、下位に完形の瓶1個体が埋置され、その周辺に薬状の炭化層が瓶の中位から土壤の下底までの厚さ10cm程堆積していた。焼土は検出されなかった。炭化物は未分析である。

出土遺物

7は口径20cm、高さ13cmの半球形に近い器形をなす。内外面口縁部に横向方向のハケが施され、外面はタテハケ後ナデ、内面はなで上げた指頭痕が明瞭に残る。底部に15個穿孔されている。



図炭化物 (10倍)

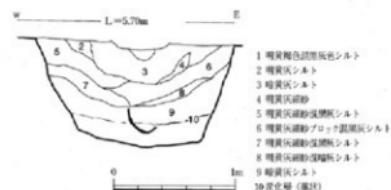


図9 SK041実測図 (1 / 40)

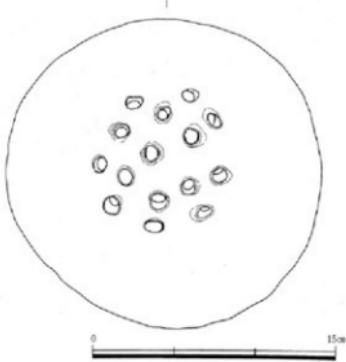
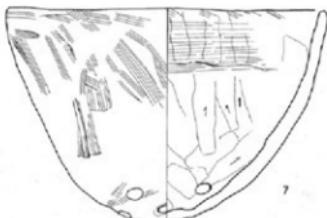


図10 SK041出土遺物実測図 (1 / 3)

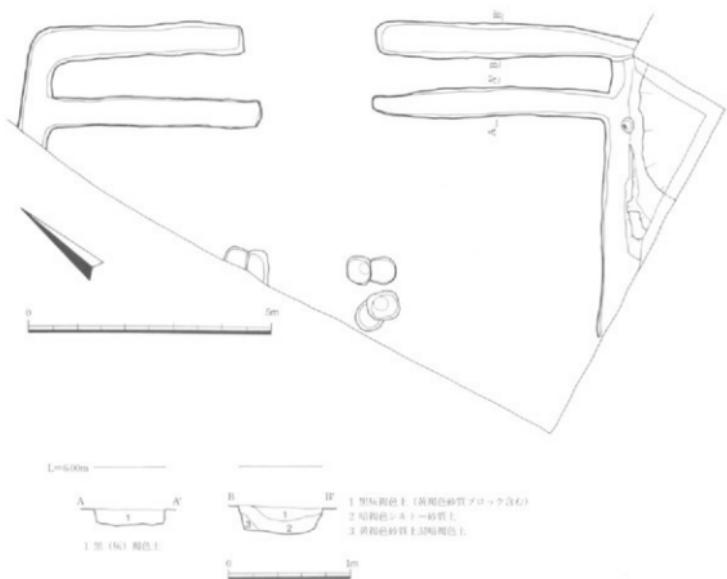


図11 SD14実測図 (1/60)



写真11 SD014実測図 (北東から)

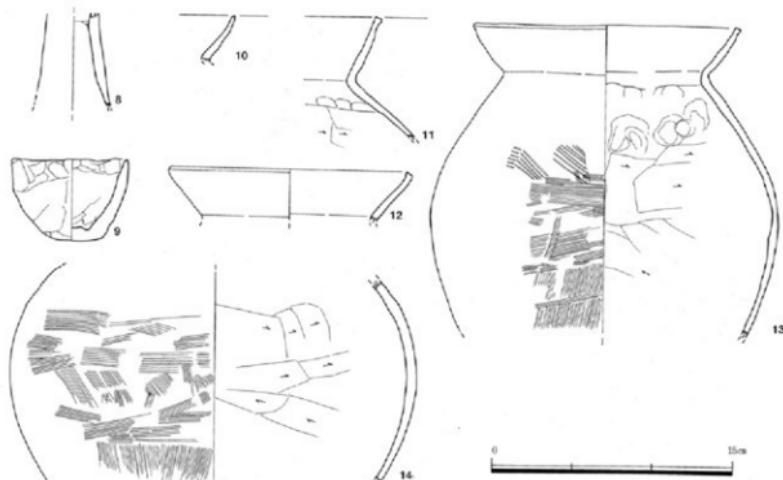


図12 SD14出土遺物実測図 (1/3)

SD014

調査区の南西部で検出された方形区画溝である。調査区外に延長するため、規模は東辺の12.5mが確認されるにとどまる。東辺には平行する2条の溝が検出されたが切り合は確認されなかった。規模はやや異なり内側の溝が幅60cmであるのに対し、外側のものはやや幅広く70cm程で巡り、深さも内側12cm、外側が22cmを測りレベルがやや下がる。北東に下降する地形によって遺存が異なる可能性もある。南辺は搅乱と溝状の遺構によって切られている。中央部が途切れ陸橋となる。陸橋を中心とした軸線の北東方

写真12 SD14出土遺物

向への延長が後述のSD01屈曲部に達することが注意される。溝の基底部は平坦で、発掘に際しては布掘の可能性も想定したが、柱穴等は検出されなかった。

区画溝内には中軸線を一にするような切り合った柱穴が検出されたが、調査区外に延長するため構造は不明である。

#### 出土遺物

8は直線的に延びた高壙脚部。9の手捏土器は南辺の小柱穴の上面から出土した。10の口縁部は内湾しながら立ち上がり端部は丸く收める。11の口縁部はわずかに内湾し、長く端部は平坦面をなす。内外面の口縁部と遺存する体部外面に整然としたヨコナデの痕跡を残す。13の外面にはタタキ後、摩耗したような細かいハケ目を施し、内面のヘラケズリは頸部より比較的下位からみられる。14は器厚の球形の体部である。





写真13 SD01遺物出土状況

SD01

調査区の中央部で検出された。北西方向へ走行し、西側へ鋭角に折れる。方向変換点がSD14の陸橋部分の延長方向になることが注意される。南側の延長は第2次調査で直進していくことが確認されている。幅55cm、深さ45cm程度断面U字形に近い。(図20) 調査区北側で下底の標高5.13m、南側で5.35mを測り約20cmの比高差を測る。埋土には暗褐色土が堆積し、下層はややグライ化する。同時期と考えられる他の遺構埋土と近似し、プランの確認が容易である。

遺物は中位より上層から炭化物とともに多く出土した。調査区北際近くでは甕23がほぼ完形で出土した。

#### 出土遺物

15、16は壺のミニチュアと思われる。15の上位は内外面ヨコナデ、16は内面を指ないし棒状のものによるナデを施す。17の高环は脚部との接合面の中心に2.5mmの心棒状の窪みがみられる。19、20は短脚であるが、19は器厚で、端部を丸く収めているのに対し、20はシャープな成形で端部は面をなす。胎土は極めて緻密。21、22は比較的長い脚部で、21の外面はミガキと思われる。23はほぼ完形で出土した。口径15.5cm、器高24.7cmを測る。口縁端部は跳ね上げ、肩部に1条の沈線が巡る。胎土に赤色の焼土粒を含む。24は器厚で、口縁端部は丸く収める。25の口縁端部は肥厚し、丸みをおびる。26、28は器厚で、頸部は湾曲する。

#### 4 中世の遺構

SE11

調査区のはば中央部で検出された。一部、現代の重機掘削により破壊されている。検出面での上端径4.7m、下端径2.3m、深さ1.5mを測る。埋土はレンズ状の堆積を示し、漸次埋没したものと考えられる。下底は砂礫層に達し、中央に桶1段の井筒が検出された。幅8cm、長さ90cmの板材で径60cmに組まれ、21枚が出土し3枚程度が欠損する。桶下部に竹のタガが1条遺存していた。桶内には青灰粘土が

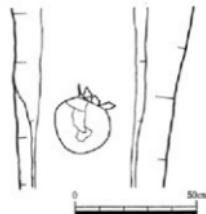


図13 SD01遺物出土図 (1/20)



写真14 SD01出土遺物

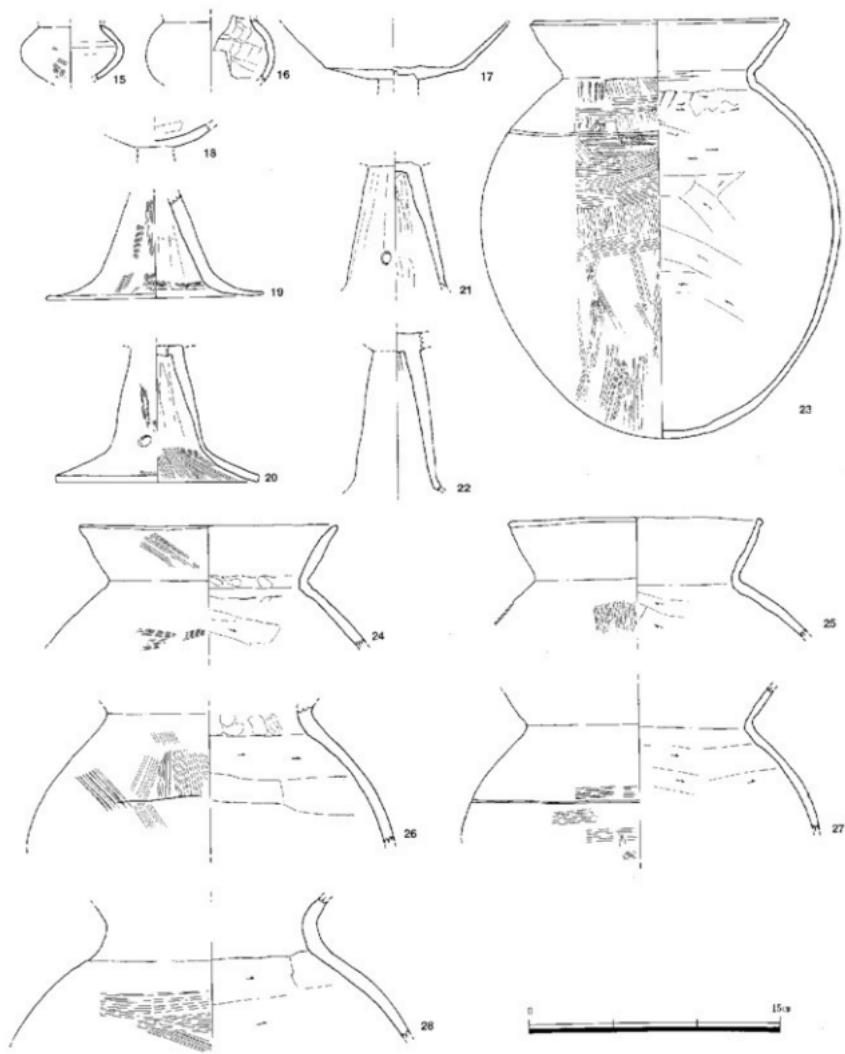


图14 SD01出土遗物实测图 (1/3)



写真15 SE11検出状況

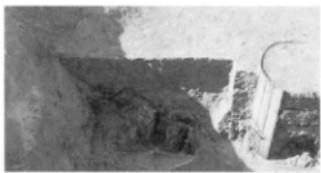


写真16 SE11下底杭列検出状況



写真17 SE11和鏡出土状況

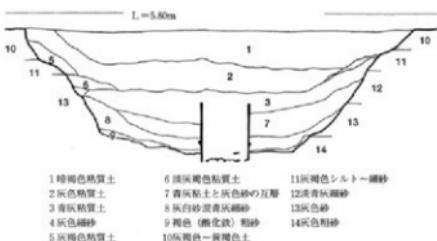
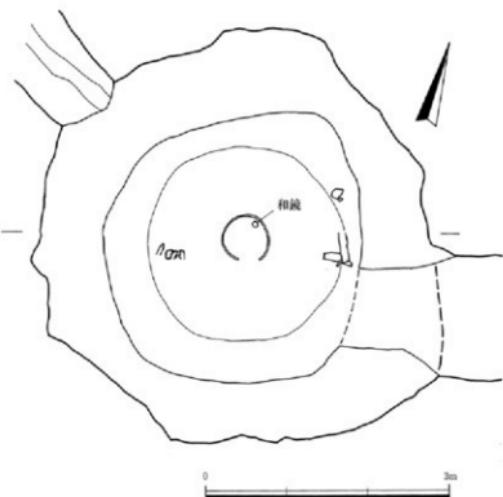


図15 SE11実測図 (1 / 40)

堆積し、下底には拳大の礫が敷き込まれていた。下底よりやや浮いた位置より和鏡が完形で出土した。

井戸掘り方の下底より杭列が検出された。井戸に付設されたものではなく、第2次調査で検出されたような下層の旧河川に伴うものと思われる。下底近くより出土した32、33の弥生初頭の土器片はこの時期を示している可能性がある。

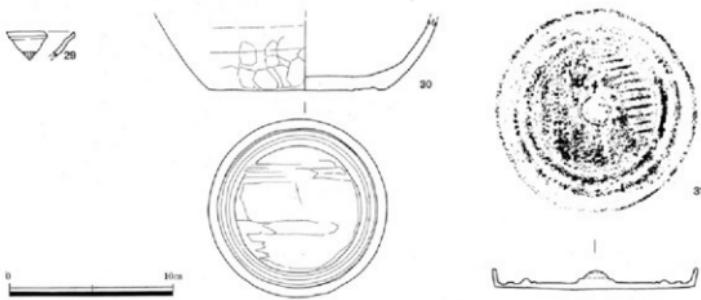


図16 SE11出土遺物実測図 (1/3)



写真18 SE11出土と鏡



写真19 SE11出土和鏡 (拡大)

#### 出土遺物

29は外面に櫛圧による施文がある青磁皿である。30は木製の刷物である。外面体部はノミによる成形後ロクロを用いて仕上げている。外底部は低い高台がロクロにより造り出され、中央は同方向に削る。31の和鏡は面径8.2cm、外縁の高さ8mmを測る。2条の圈帯が巡る外区には求心状に細かい櫛圧が施文されている。内区には周縁に小さい殊文を巡らした亀形の縦とその左上に嘴を突き合わせるように舞う2羽の雀を配置する。右側にはボジの平行線の文様がみられ、他は砂の付着と錆が著しく構成は不明瞭であるが細い松葉の文様が施されている。32、33は基底近くの砂礫から出土した。32は肩部に2条の細い沈線を巡らし、下位に3条の平行する極細線が斜位に刻まれる。33の遺存する外面は丹塗磨研である。



写真20 SE11出土刷物容器

SB46

調査区の北側で検出された梁行3.1m、桁行6.1mを測る掘立柱建物跡である。北側の梁行に小さい柱穴の間柱が柱筋より外側へ突出して検出された。全ての柱穴埋土はグライ化した灰色土と明黄褐色土を含み、古墳時代等のものと明らかに区別できる。同様の埋土をもつ柱穴は調査区北西際でも検出されたが、柱筋が北側の調査区外へ延びていくため規模は不明であった。

出土遺物

図20の36がSP25より出土した。遺存する部位は露胎である。外底近くから高台まで回転ヘラケズリを施す。

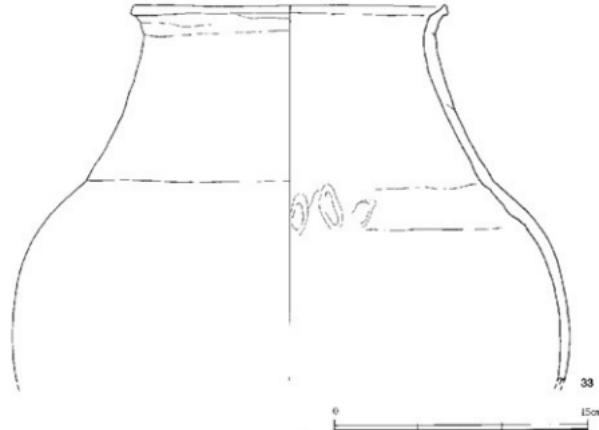
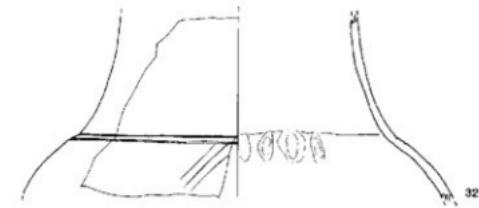


図17 SE11下底出土遺物実測図(1/3)

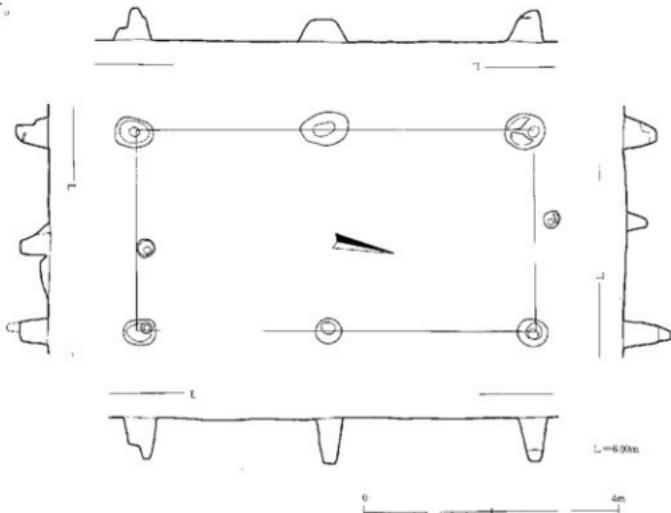


図18 SB46実測図(1/80)

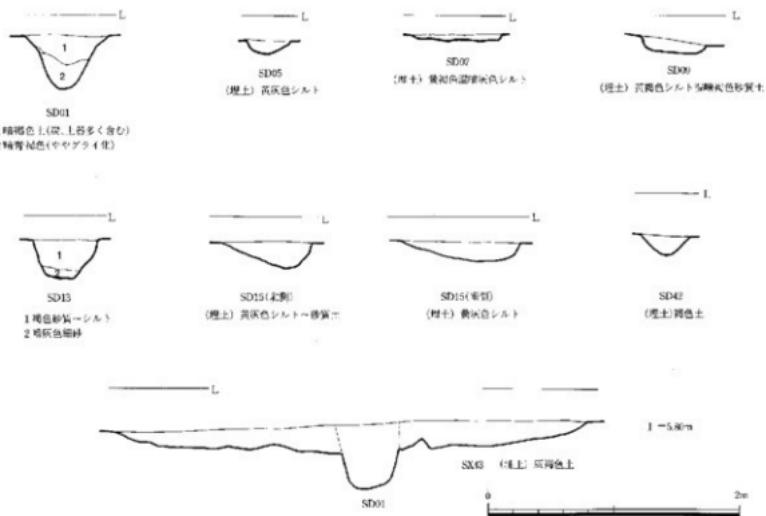


図19 溝断面図 (1/40)

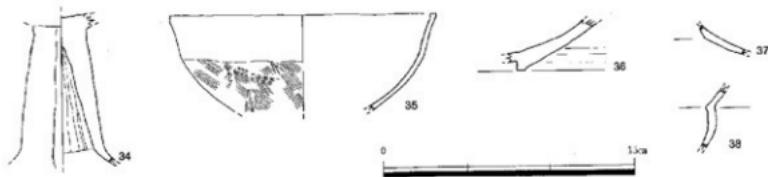


図20 溝、柱穴、包含層出土遺物実測図 (1/3)

## 5 その他の遺構

### 溝(SD)

既述したSD01とSD10以外についてまとめて記す。走行する方向から分類すると下記のようになる。

#### I類 蛇行しながら北東方向に走行する

SD09、SD15、(SD08はSD15の延長の可能性がある。)

#### II類 I類に方向は近く、プラン、基底の形状ともに水流による侵食による起伏が大きい。

SD16、SD40 (SX43はグライ化した埋土で水口状のプランを呈す。)

#### III類 西に10~20°ふれた条里に近い方向で直線的に走行する。

SD13、SD42、SD04 (SD03、07は直に近いカーブした方向となっている。)

SD03、SD04は明黄褐色の埋土で現代の可能性も含み新しいものと思われる。

IV類 東にふれて直線的に走行する。

SD02、SD05、SD46

いずれの溝からも出土遺物は少なく、明確な時期が決めがたい。

S X35

SD16の延長方向に調査区北側で検出された。埋土は灰色砂混褐色土でSD16と類似し、同一遺構の可能性がある。出土遺物34の高環脚部は外面に縦線のヘラ記号が施され、内面には絞りの痕跡を明瞭に残す。明褐色を呈す。

#### 柱穴・包含層出土遺物

35は調査区南西部で検出された柱穴から出土した鉢である。

器肉が薄く、口縁端部は水平に仕上げる。外面の体部下位は細かいハケメを施す。布

留式陶の新相に伴う時期であろう。36、37は北側の暗褐色包含層から出土し、調査区内の基本層序の第3層の堆積時期を示すものである。(図3参照) 37は高環の脚部。38は小形丸底壺である。何れも、布留式併行期と考えられる。



写真21 SD16、SB45完掘状況（南東から）

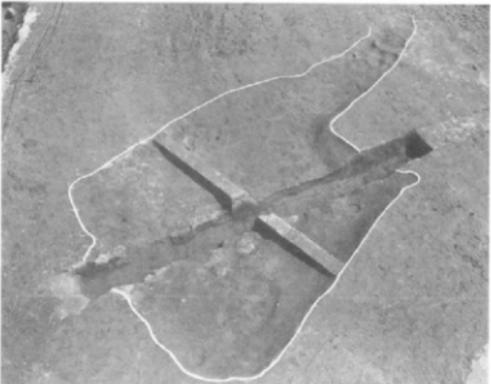


写真22 SX43完掘状況（西から）

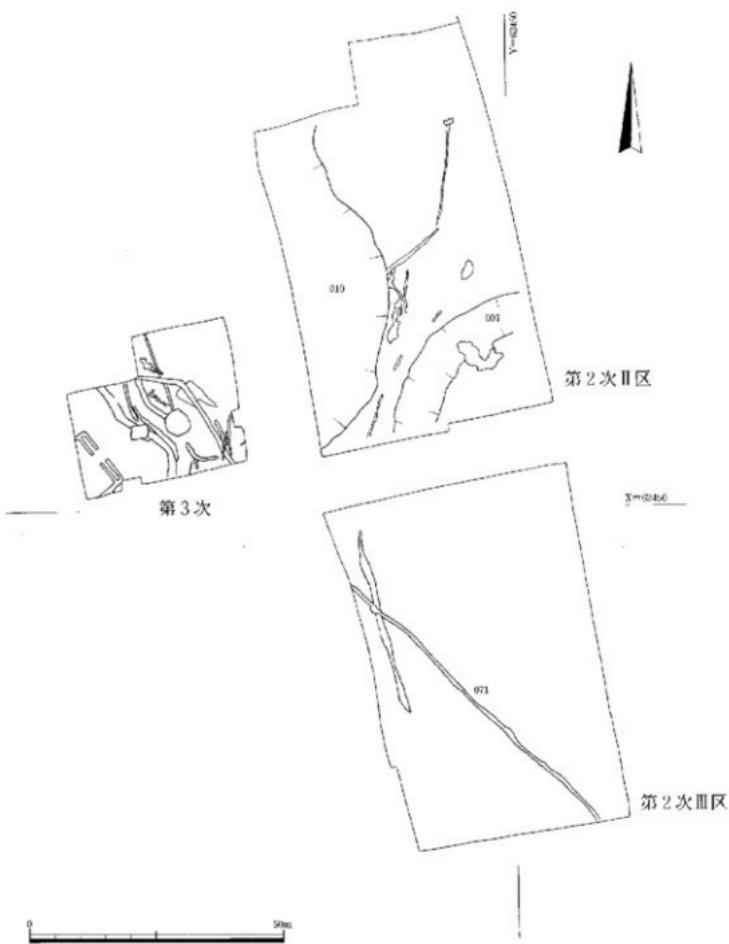


図21 第2次、第3次遺構配置図

まとめ

検出された主な遺構とその時期は以下のとおりである。

縄文晩期～弥生時代前期（突帯文期）	SD10
古墳時代（布留式耕行期）	SD01、SD14、SC12、SK41
中世	SE11（13世紀以降）、SB45

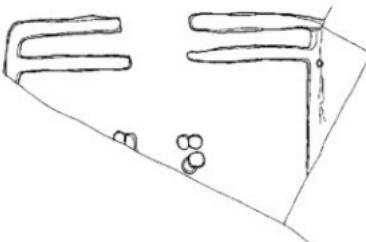
本調査地点は第2次調査で検出された旧河川SD010の範域に位置する。検出された旧河川の流域内において北東部のトレンチの土層(図3)でみられたように幾条かに流路を変化させている。これは第2次調査の所見からも伺える。また、突堤文期以降にはこの流路を利用した水路や矢板、杭列等の水利施設が設けられていることが第1、2次調査を含め確認されているので周辺に該期の水田が存在した事は確実である。本調査地点内の旧河川は古墳時代前期の布留式期までは完全に埋没し、南西部を中心に集落が形成されている。この集落を限ると考えられるSD01の延長は第2次調査のSD071になる可能性がある。中世になるとN-10°-Wの条里方向に合致した溝が掘削されるとともに、掘立柱建物跡(SB45)や井戸(SE11)にみられる様に集落の範囲も沖積地に拡大していったものと思われる。

#### SD14について

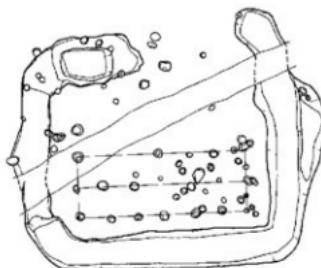
方形区画溝と考えられるSD14は1辺に平行する2条の溝が検出された特異な形状をなす。調査区が限られるために規模や、内部の施設が不明な点を多く残すが、集落のなかで中心的な施設があった可能性がある。ここでは市内において集落内に方形周溝が検出された蒲田・水ヶ元遺跡を例示しておく。

#### 蒲田・水ヶ元遺跡（福岡市埋蔵文化財報告書第491集 1996）

弥生時代後期の竪穴住居跡が密集する地区から隔離して検出された。南西辺に不整形の陸橋を設け約10m四方に囲む幅1.5mの溝を掘削し、内部に梁行2間、桁行6間の掘立柱建物跡が築かれているが切り合っている可能性もある。時期は弥生時代後期中頃。



1. 楠木一丁田遺跡第3次



2. 蒲田水ヶ元遺跡

0  
5m

図22.方形区画溝(1/200)

## 女原遺跡群第3次

### 1 調査に至る経過

調査地点は福岡市西区女原字ムロ279番1、280番他に位置する。分譲住宅地建設のための宅地造成を開発目的とし、平成8年度に三島聖明氏より、平成9年度には株式会社福岡住宅より事前審査願いが教育委員会文化財部埋蔵文化財課に提出された。これを受け、当課では開発地が埋蔵文化財包蔵地の範囲に含まれる事を確認し、試掘調査を行った。平成8年度の試掘調査では開発地の一部にトレンチを設定し、遺構が確認された。その後、計画が具体化した平成9年度の再試掘においても遺構を検出した為、調査にむけての協議を行う事となった。開発計画は戸建の分譲住宅地であるために、深い削削が無く、調査対象は道路部分に限られる事となり、さらに北側部分については試掘によって削平を受け、遺構が無いという判断によって調査対象から除外された。従って、調査区は幅約6m、延長約47mのかぎ形の範囲で282m<sup>2</sup>を測る。調査は平成1997年10月7日より開始した。

### 2 調査体制

調査は以下の組織体制で臨んだ。

(調査主体) 福岡市教育委員会 (調査総括) 埋蔵文化財課長 荒巻輝勝 第一係長 二宮忠司  
(事前審査) 上任文化財主事 松村道博 係員 池田祐司 (庶務) 河野淳美 (調査担当) 荒牧宏行

## II 位置と環境

### 地形

調査地点は糸島平野の東端に位置し、高祖山（標高416m）から北側へ派生した丘陵裾部に位置する。この丘陵裾部一帯は砂礫の堆積物からなる低位段丘面が延長し、その谷間に土石流の段丘が広がる。本調査区においても遺構検出面以下に厚い砂礫がうねり堆積し、さらに南側約10m地点の立会では層厚1m近くの砂層が見られた。

### 周辺の遺跡と既往調査

本調査区北側の丘陵端部には今宿の小平野を統治する首長墓の山の鼻1号墳、若八幡古墳、丸隈山古墳、大塚古墳（何れも前方後円墳）が並立し、4世紀中頃から6世紀代までの系譜を追うことができる。なお、女原遺跡群における既往の調査では沖積地に立地した古墳時代の竪穴住居跡を中心とした遺構が検出されている。概略は以下の通りである。

第1次調査（調査番号8517）圃場整備に伴う調査で古墳時代の集落が検出されている。調査面積3000m<sup>2</sup>。未報告。

第2次調査（調査番号8626）圃場整備に伴う調査で古墳時代の集落が検出されている。調査面積2270m<sup>2</sup>。未報告。

第3次調査（調査番号8660）今宿バイパス建設工事に伴う調査。5世紀前半代の竪穴住居跡、土壙、溝などが検出されている。出土遺物中には韓半島系の陶質土器、軟質土器が多く含まれ注目される。調査面積5550m<sup>2</sup>。福岡市埋蔵文化財報告書第224集所収。

第4次調査（調査番号8720）第3次調査と同じ（調査年次が変わったもの）

東側に隣接する徳永遺跡群では今宿バイパス建設工事に伴う調査によって包含層より長沙窯系水注、荊州窯系白磁、越州窯系青磁、白磁、綠釉陶器、瓦などが出土し、近接して官衙もしくは寺等の存在していた可能性がある。なお、若八幡古墳の西北の第1地点（大塚遺跡6次）では道路遺構に付随する波板状遺構と同様のものが検出されている。



図1 女原遺跡群第5次 調査地点と周辺遺跡分布図 (1/8000)



図2 女原遺跡群第5次調査区 (1/1000)



写真1 調査区南側全景（北西から）



写真2 調査区北側全景（北から）

### III 調査の記録

#### 1 調査の概要

上述のように調査区が道路部分に限られたために遺構の分布、立地等に不明瞭な部分を残すが、丘陵先端に広がる砂礫台地（低位段丘面）に立地した本調査区では南側の高所の範囲に包含層や遺構の分布をみることができた。検出した遺構は弥生時代中期、古墳時代の柱穴、竪穴住居跡の可能性をもつ浅い竪穴2基、近世の土塹1基、溝1条である。北側は削平、擾乱により壊滅的に遺構は消滅しているが、北端の段落ち部分に近世の約4m幅の大溝を検出した。

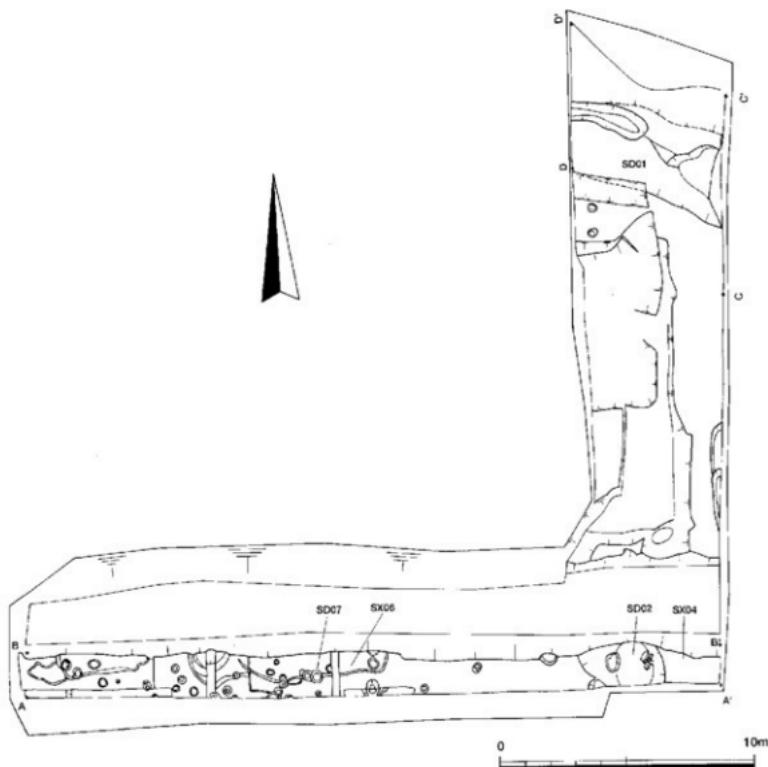


図3 女原遺跡群第5次 遺構全体図 (1/200)

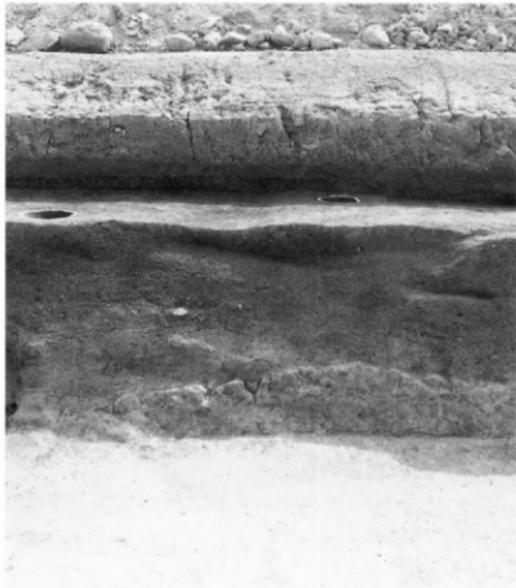
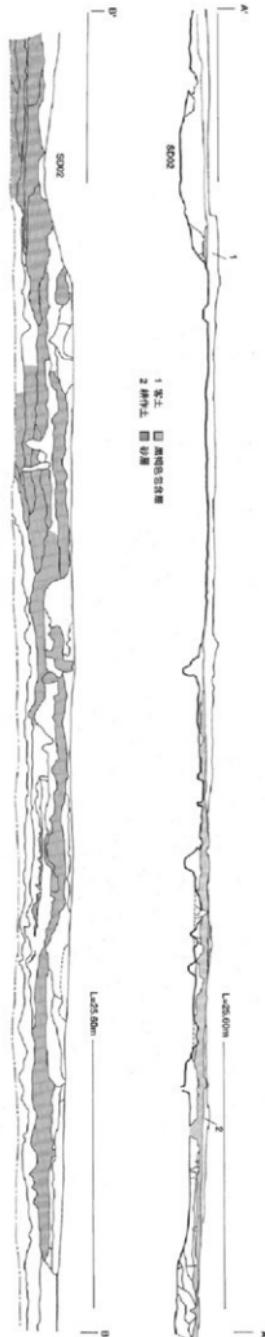


写真3 調査区南側土層断面（北から）

## 2 土層

調査区は丘陵先端に広がる砂礫台地（低位段丘面）に位置する。南側の遺存が良好な土層では、表土下120cmまで客土が盛られ、以下、水田耕作土、褐色包含層が堆積する。褐色包含層は南西部に厚く、約20cm堆積する。遺構検出はこの包含層下の褐色砂質土で行い、その標高は25mを測る。

以下、既存の擁壁を除去した深堀部分で確認した土層は約1mの深さまで砂礫と砂が起伏が大きい互層になって堆積し、その下部に明黄白色の砂質土が堆積している。これらの土層中からは遺物、遺構は検出されない。



### 3 造構

造構は南西部に多く見られ、北側では削平、搅乱のため造構は大半が消滅している。

#### 1 SD01

調査区北縁で検出された。現況の約80cmの段落ち部分に近接している。幅4m、最深部は検出面から70cmを測る。北側の立ち上がりは段落ちによって切られている。埋土の暗褐色～黒褐色の砂礫を多く含む砂質土には土器の細片が多く含まれる。

#### 出土遺物

3は明染である。外面に松葉文、内面見込みに濃淡のある図線が描かれている。高台は内傾し、置付は露胎である。7は甕の取手である。

#### 2 SX02

調査区の南東縁で検出された。検出された範囲が限られるために全体のプランは不明であるが、橢円形に近い土壤、若しくは溝と考えられる。下端は橢円形に収束していく部分がみられる。最深部は検出面から50cmを測る。最深部から一段立ち上がった部分に下底より20cm程浮いて礫が集積し、以東は緩やかに立ち上がっていき小礫が多く混入する。埋土の暗褐色砂質土は調査区の東端までみられ、東岸の上端は確認できなかった。

#### 出土遺物

5、6の土師皿は底径が各8.5cm、推定7.0cmを測る。6の底部は厚く、体部は直に近く立ち上がる。8は東側の立ち上がりから出土した土師質の捏鉢である。

#### SX15

調査区の南西端で検出された。方形の竪穴住居跡の可能性がある。検出された1辺は3.2m、深さ10cmを測る。炉、壁溝等の施設は検出されなかった。

#### SX06

方形竪穴住居跡が2棟以上切り合っている可能性があるが、判別はできなかった。深さは5cm程度、SX15同様、付随する施設は検出されなかった。

#### 出土遺物

1の小形丸底甕は内面の体部上位はケズリ、下位はナデ調整。2は布留期の甕口縁部である。わずかに内湾し、端部は丸く内側に突出する。



写真4 SD02 完掘状況（南西から）

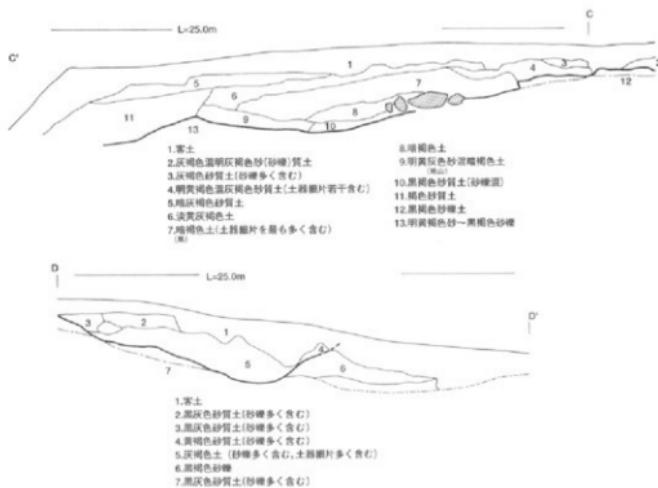


図5 SD001 土層断面図 (1/60)



写真5 SD01 土層断面 (東から)



写真6 SX15 完掘状況 (南から)

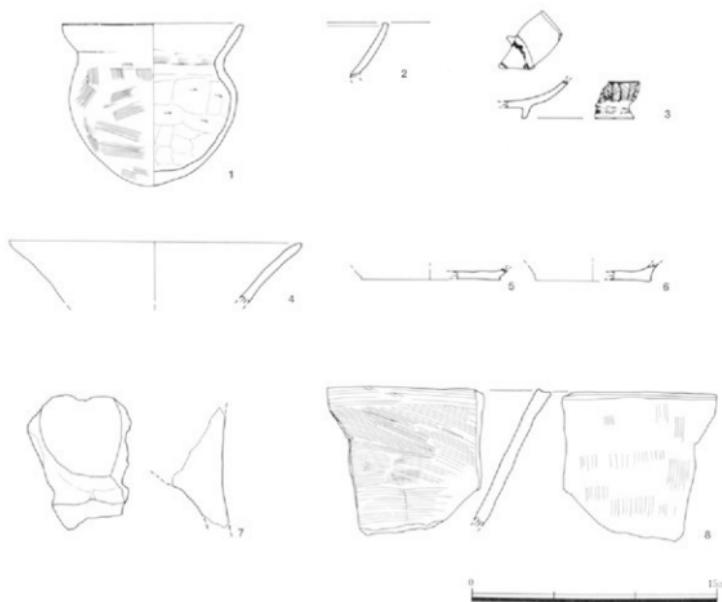


図6 女原遺跡群第5次調査出土遺物（1/3）



写真7 SX06 出土遺物



写真8 SD01 出土遺物

**橋本一丁目遺跡・女原遺跡**

—橋本一丁目遺跡群第3次調査—

—女原遺跡群第5次調査—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第616集

1999年（平成11年）3月31日

編集・発行 福岡市教育委員会

福岡市中央区天神1丁目8番1号

電話 (092)711-4667

印 刷 松影堂印刷株式会社

福岡市博多区吉塚5丁目13番40号

電話 (092)622-7971

